

サポカー/サポカーS で未来はもっと 明るくなる。

衝突被害軽減ブレーキ

[サポカー] [サポカーS]

加速抑制装置

[サポカーS]

くわしくは サポカー  で検索!
<https://www.safety-support-car.go.jp>



経済産業省



国土交通省



金融庁
Financial Services Agency



警察庁
National Police Agency

作動には一定の条件があります。条件によっては、作動しない場合がありますので、引き続き、安全運転を心掛けてください。

「サポカー」「サポカーS」とは?

政府は、高齢運転者による交通事故対策の一環として、衝突被害軽減ブレーキなどの先進安全技術を活用した一定の運転支援機能を備えた「サポカー」「サポカーS」の普及啓発に、官民一体で取り組んでいます。2020年までに衝突被害軽減ブレーキの新車乗用車搭載率を9割以上にする政府目標も掲げています。

 セーフティ・サポートカー [サポカー]	 セーフティ・サポートカーS [サポカーS]	<p>サポカーS の区分 搭載される装置により、さらに3つの区分に分かれます。</p> <table border="1"><tr><td> ワイド</td><td>衝突被害軽減ブレーキ(対歩行者)、ペダル踏み間違い急発進抑制装置※1、車線逸脱警報※2、先進ライト※3</td></tr><tr><td> ベーシック+</td><td>衝突被害軽減ブレーキ(対車両)、ペダル踏み間違い急発進抑制装置※1</td></tr><tr><td> ベーシック</td><td>低速衝突被害軽減ブレーキ(対車両)※4、ペダル踏み間違い急発進抑制装置※1</td></tr></table>	 ワイド	衝突被害軽減ブレーキ(対歩行者)、ペダル踏み間違い急発進抑制装置※1、車線逸脱警報※2、先進ライト※3	 ベーシック+	衝突被害軽減ブレーキ(対車両)、ペダル踏み間違い急発進抑制装置※1	 ベーシック	低速衝突被害軽減ブレーキ(対車両)※4、ペダル踏み間違い急発進抑制装置※1
 ワイド	衝突被害軽減ブレーキ(対歩行者)、ペダル踏み間違い急発進抑制装置※1、車線逸脱警報※2、先進ライト※3							
 ベーシック+	衝突被害軽減ブレーキ(対車両)、ペダル踏み間違い急発進抑制装置※1							
 ベーシック	低速衝突被害軽減ブレーキ(対車両)※4、ペダル踏み間違い急発進抑制装置※1							

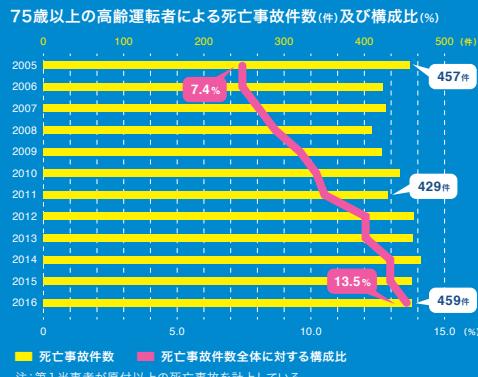
※1 マニュアル車は除く。※2 車線維持支援装置でも可。※3 自動切替型前照灯、自動防眩型前照灯又は配光可変型前照灯をいう。※4 作動速度域が時速30km 以下のもの。

運転者の事故低減に有効です

死亡事故件数全体に占める
高齢運転者の割合が増加しています。



75歳以上の運転者による死亡事故件数は、近年、横ばいで推移していますが、死亡事故件数全体が減少傾向にあるため、その占める割合は増加しています。2016年中の75歳以上の運転者による死亡事故は、75歳未満の運転者に比べブレーキとアクセルの踏み違いによる事故の占める割合が8.7倍高いほか、工作物衝突や路外逸脱等の車両単独の占める割合が高いことが明らかになっています。



事故の発生防止・被害軽減のために開発された「先進安全技術」があります。

衝突被害軽減ブレーキ(対車両・対歩行者)



車載レーダー等により前方の車両や歩行者を検知し、衝突の可能性がある場合には、運転者に対して警報します。さらに衝突の可能性が高い場合には、自動でブレーキが作動します。

- 危険を予測し衝突を回避、または被害を軽減。

ペダル踏み間違い急発進抑制装置



停止時や低速走行時に、車載レーダー等が前方や後方の壁や車両を検知している状態でアクセルを踏み込んだ場合には、エンジン出力を抑える等により、急加速を防止します。

- 駐車スペースから出る時などの誤操作による急発進を防ぐ。

車線逸脱警報



車載カメラにより道路上の車線を検知し、車線からはみ出しそうになった場合やはみ出した場合には、運転者に対して警報します。

- 車線を検知して、はみ出しを警報。

先進ライト



前方の先行車や対向車等を検知し、ハイビームとロービームを自動的に切り替える自動切替型前照灯、ハイビームの照射範囲のうち当該車両のエリアのみを部分的に減光する自動防眩型前照灯のほか、配光可変型前照灯があります。

先進安全技術はあなたの安全運転を支援しますが、事故を完全に防ぐものではありません。

サポカー、サポカーSに搭載されている先進安全技術は、交通事故の防止や被害の軽減に役立ちますが、これらの技術も万能ではなく、条件によっては装置が作動しない場合もあります。装置の機能を過信せず、引き続き安全運転を心掛けて頂きますようお願いします。